

森保ジャパンの奇跡に列島湧き上がる

文責 学校長



～三苦の1ミリが日本を決勝トーナメントへ導く～

1 森保ジャパン、ドイツに続きスペインも撃破。奇跡は続く。

コスタリカ戦でまさかの敗退を喫し、崖っぷちの状況で迎えたスペイン戦。前半11分に先制されるも、前半を鉄壁の守備で0-1でしのぎ、迎えた後半戦。三苦・堂安選手を投入し、後半3分、リスク覚悟でボールを奪いに行った伊東純也がヘディングで落としたボールを堂安が驚愕のロングシュートで同点に迫り着き、後半6分、世界中を論争に巻き込んだ「三苦の1ミリ」の奇跡的な折り返しに幼馴染の田中碧が逆転ゴールを決め、日本中を興奮の坩堝へ。残り35分に及ぶスペインの怒涛の猛攻を全員で守り切り奇跡の勝利を果たした。死のE組でまさかの1位通過を誰が予想したであろうか。今夜、クロアチア戦に挑む。ベスト8への夢の扉をこじ開ける戦いを期待したい。



2 読書感想文コンクールで優良賞・佳作に入選しました。

第68回青少年読書感想文コンクールの県審査があり、本校の山口葉月さん(2-5)の「真の敵」が優良賞に、原千智さん(1-3)の「交差する」、貴志晴香さん(2-6)の『海と毒薬』を読んで、東島史夏さん(2-2)の『こころ』で『いのち』を考えるが佳作に、それぞれ選ばれました。

3 武雄温泉駅で「高校生が見た土木工事の世界」の写真パネルが展示されています。

本校写真部が参加した「青春ビルドプロジェクト」(建設新聞社主催)で撮影された写真のパネル展が武雄温泉駅の在来線構内や新幹線改札口待合室前で開催されています。期間は12月2日(金)～12月16日(金)です。第30号で紹介した、県総文祭写真展で佳作入選を果たした山下颯彌くん(1-3)の「明日へ」(右写真)の作品も展示してありますので是非御覧ください。



4 今週の名言・・・出光佐三の言葉です。

努めて難関を歩いて、努めて苦勞を味わう。これが人間としては、大切なことである。



【解説】百田直樹の小説『海賊と呼ばれた男』のモデルとされる出光佐三氏の言葉です。彼は、日本の近未来は石油の供給で決まると考え、その一生を石油の運送に捧げ、難関を歩き苦勞した人物です。戦後、石油メジャーに世界の石油がよいように操られていたとき、出光石油の大型タンカー一日章丸が、見事にイランから石油を日本に持ってきました。イギリス海軍を出しぬいての快挙に日本国民のみならず世界中は驚きました。佐三氏が社員に「儲けよ」と言ったことはないという。「日本のために、人々のために少しでも役立つことを考えよ」と指導した。日本が高度経済成長し甦るためには、安い石油があればよいと信じたのでした。そうした苦難、苦勞があってこそその充実した人生だったのではないのでしょうか。苦難の道を敢えて選ぶ、そんな彼の生涯を描いた『海賊と呼ばれた男』を『永遠の0』と併せて読むことをお勧めします。

【出光佐三について】明治から戦後にかけての日本の実業家・石油エンジニア・海事实業家。石油元売会社出光興産の創業者。神戸高等商業学校(現・神戸大学)卒業。同校で水島鏡也校長に師事し「士魂商才」の理念に感化を受ける。内池廉吉教授の「商業概論」の講義で受けた「商売は金儲けではない」との教えから、1940年に出光興産創業後、大地域小売業を展開した。弟・出光計助は第2代社長。長男・出光昭介は第5代社長。主に九州でガソリンスタンドを展開する新出光の創業者・出光弘とも兄弟関係にあった。新出光社長の出光芳秀は甥にあたる。甥の妻が推理作家の夏樹静子である。佐三は故郷である福岡県宗像市に在る宗像大社の再建にも貢献した。(参考:「Wikipedia」より)

5 今週の話事成語・・・「青天の霹靂」【問題】英語で表現すると？

青天の霹靂とは、予想外のことや事件が突然起こること。

【由来】青天の霹靂の「青天」は、雲ひとつない澄んだ青空。「霹靂」は、突然かみなりが鳴ること。澄んだ青空に突然かみなりが鳴る意味から、予想外のことが突然起こることを「青天の霹靂」と言うようになった。その由来は、中国南宋の詩人・陸游が『九月四日鷄未鳴起作』の中で、「青天、霹靂を飛ばす」と表現したことによる。病床に伏していた陸游が突然起き上がり、筆を走らせた勢いかみなりにたとえたもので、本来、「青天の霹靂」は筆の勢いを表す言葉であった。11世紀、北宋王朝の時代から、中国の詩で使われている表現で、元来、詩や文章の力強さのととえて、早いものとしては、11世紀前半、20代後半で亡くなった夭折の詩人、王令の作品に、友人の詩の出来栄を「万古の青天、霹靂飛ぶ(昔から変わらない青空に、雷鳴が響く)」と表現した句があり、これが後に変化し、突発的な大事件の例えとして使われるようになりました。



6 入試によく出る漢字(その59)・・・共通一次(1981年度本試験)に挑戦!

- (1) いくつかの重要な栽 [バイ] 植物をつくりだしたことは・・・[培・倍・陪・剖・賠]
- (2) それは [エン] 天下のつらい作業ではあっても、・・・[円・炎・煙・遠・鉛]
- (3) 気 [カン] を切開して、最期に言いたいことも・・・[管・官・関・感・幹]
- (4) 悲惨な [シコウ] 錯誤をかさねながら、・・・[施工・思考・試行・指向・志向]
- (5) その模 [サク] と努力の過程ではないかと・・・[作・削・索・酢・策]

7 今週の一冊・・・池井戸潤の『ハヤブサ消防団』(集英社)です。

ミステリ作家vs連続放火犯 のどかな集落を揺るがす闘い!
東京での暮らしに見切りをつけ、亡き父の故郷であるハヤブサ地区に移り住んだミステリ作家の三馬太郎。地元の人々の誘いで居酒屋を訪れた太郎は、消防団に勧誘される。迷った末に入団を決意した太郎だったが、やがてのどかな集落でひそかに進行していた事件の存在を知る——。連続放火事件に隠された真実とは?
地方の小さな町を舞台にした、池井戸作品初の“田園”小説として、「小説すばる」連載中から話題を呼んだ珠玉のミステリ。



【解説】池井戸潤氏の最新刊を図書館で見つけ、早速借りて読んでみました。池井戸潤氏の小説と言えば、「半沢直樹」シリーズ、「花咲舞」シリーズに代表される銀行を舞台にした小説や、『下町ロケット』シリーズや、『陸王』・『ルーズヴェルト・ゲーム』・『ノーサイド・ゲーム』に代表される企業を舞台にした小説のイメージが強いですが、今回は田舎ののどかな集落を舞台としたミステリー小説です。若干ネタバレになりますが、今問題となっている宗教団体(架空)の活動の実態等も絡んでくるタイムリーでリアルな社会小説となっています。これまでの作品同様、読者を池井戸ワールドに引き込み、最後は**痛快な読後感**が味わえるお薦めの一冊です。

【作者・池井戸潤について】1963年岐阜県生まれ。慶應義塾大学卒。98年『果つる底なき』で第44回江戸川乱歩賞を受賞し作家デビュー。2010年『鉄の骨』で第31回吉川英治文学新人賞を、11年『下町ロケット』で第145回直木賞を受賞。主な作品に、「半沢直樹」シリーズ(『オレたちバブル入行組』『オレたち花のバブル組』『ロスジェネの逆襲』『銀翼のイカロス』『アルルカンと道化師』)、「下町ロケット」シリーズ(『ガウディ計画』『ゴースト』『ヤタガラス』)、『空飛ぶタイヤ』『七つの会議』『陸王』『アキラとあきら』『民王』『民王 シベリアの陰謀』『花咲舞が黙ってない』『ルーズヴェルト・ゲーム』『ノーサイド・ゲーム』『シャイロックの子供たち』などがある。

8 世界遺産を巡る・・・第84回は福建土楼(中国)

(登録：2008年)

【解説】福建土楼は、中国の福建省西南部の山岳地域に点在する土楼群です。ほとんどは12世紀から20世紀にかけて建てられています。土楼は**大きな集合住宅**で、円形や楕円形、方形など形は様々です。外観は一見すると要塞のようです。福建土楼は2008年、世界遺産に登録されました。土楼とは、通常は外部立入が禁止されている大きな集合住宅で、そこには客家(ハッカ)という北方からの移民の人々が一族で住んでいました。異民族に追われ、一族で南下してきた客家の人々は、結束して自分たちの身を守る必要がありました。そのため、180cm以上の厚い土壁を設け、3階建てや5階建てなどの大きな住宅を造り、そこに80家族以上が集まったのです。**外敵の侵入を防ぐため、入口は1つしか設けていません。**中国の伝統的な住居に特有の考え方として、「外に閉じ内に開く」というものがあります。土楼は中央に中庭があり、そこには共同の井戸や祖先を祀った廟があります。中庭を中心として、その周りに住居が建てられているという様相です。対等な共同生活をするために、間取りはすべて同じです。一般的に台所や井戸は共同で、中央の祖廟に向かって一族で住むことが、一族の統一と保護の象徴でもありました。壁が厚く造られているので、矢や銃撃も防ぐことができました。外壁上層部には穴があり、そこから銃撃することも可能でした。写真は南靖県にある、黄氏の人々が住む土楼です。5つの土楼から構成されており、方形の歩雲楼を中心として、周りに3つの円楼と1つの楕円形の楼があります。土楼の中で生活が完結するようになっていて、中で家畜を飼っているところもあります。一部の土楼は見学することもできますし、中には**空いている部屋に泊まることもできる**そうです。(参考:「世界遺産人気ランキング」より)



9 街角グルメを訪ねて・・・第84回は波佐見町の「オカモト・シェ・ダムール」です。

前回紹介した佐世保の「らんぷ亭」に行った帰りに立ち寄った波佐見のスイーツ店「オカモト・シェ・ダムール」を紹介します。本店は長崎県小浜町にある同店名のパティスリー&カフェのお店です。ロールケーキ「ぐるぐる」が人気のお店で、本店は**波の湯・茜**の近くに 있습니다。その支店が武雄から近い波佐見町にできたことを知って立ち寄りました。この日は「ティラミス」・「**そんまんま**」・「**和栗のモンブラン**」・「昔ながらのモンブラン」を買って帰りました。武雄・嬉野・有田に隣接する町なので是非一度お立ち寄りください。選ぶのに迷ってしまうほど種類は豊富です。焼き菓子もあります。



10 保護者の皆様へ・・・全九州総文祭が佐賀で開催されています。お出かけください。

【英語】◇ bolt out of the blue ◇ 《like》 a bolt from [out of] the blue

【正解】(1) 栽培 (2) 炎天下 (3) 気管 (4) 試行 (5) 模索